

【漢字読み問題】

灰汁	あく	
欠伸	あくび	
胡坐	あぐら	
四阿	あずまや	屋根を四方にふきおろし、壁がなく柱だけの小屋
唾然	あぜん	
誂る	あつらえる	
軋轢	あつれき	仲が悪くなること。「一が 生じる」
艶姿	あですがた	
侮る	あなどる	軽蔑する。
予め	あらかじめ	
行脚	あんぎゃ	
暗澹	あんたん	暗く陰気なさま「一たる思いになる」
行灯	あんどん	
塩梅	あんばい	
許嫁	いいなづけ	
遺憾	いかん	期待 したようにならずに、心残りに思うこと。残念に思うこと。
憤る	いきどおる	
潔い	いさぎよい	
漁火	いさりび	
蝟集	いしゅう	一時に1ヶ所に多くの者が寄り集まること
労わる	いたわる	
公孫樹	いちょう	
一段落	いちだんらく	
一瞥	いちべつ	
一揖	いちゆう	一礼 軽くお辞儀をすること
指宿	いぶすき	鹿児島 の地名
苟も	いやしくも	仮にも
所謂	いわゆる	
慇懃	いんぎん	真心がこもっていて、礼儀正しいこと
烏合	うごう	規律も統一もなく寄り 集まること。「一の衆」
胡散	うさん	胡散臭い
太秦	うずまさ	京都の地名 映画村で有名
団扇	うちわ	
疎い	うとい	

恭しい	うやうやしい	相手を敬って、礼儀正しく丁寧である。
烏有	うゆう	全くないこと。「一に帰す」
胡乱	うろん	正体が怪しく疑わしいこと
蘊蓄	うんちく	蓄えた深い学問や知識。「一を傾ける」
壊死	えし	生体の細胞や組織が死ぬ事
演繹	えんえき	一つの事柄から他の事柄へ押し ひろめて述べること。⇔帰納
婉曲	えんきよく	露骨でなく、遠まわしに言うさま。
冤罪	えんざい	濡れ衣
厭世	えんせい	世の中をいやなもの、人生を価値のないもの と思うこと。
掩蔽	えんぺい	覆い隠すこと
女川	おながわ	宮城県各市
戦く	おののく	
阿る	おもねる	人の気に入るように振る舞う。へつらう。
徐に	おもむろに	落ちついて、ゆっくりと行動するさま
慮る	おもんばかり	周囲の状況などをよくよく考える。思いめぐらす。
快哉	かいさい	ああ愉快だと思ふこと。胸がすくこと。「一を叫ぶ」
改竄	かいざん	字や語句を変えること
灰燼	かいじん	灰と燃えさし。「一に帰す」
傀儡	かいらい	あやつり人形
乖離	かいり	そむき離れること。「人心から一した政治」
瓦解	がかい	ある一部の乱れ・破れ目が広がって組織全体がこわれること
案山子	かかし	
各務原市		かかみがはらし 岐阜の地名
花卉	かき	鑑賞用になる美しい花をつける植物の総称
角逐	かくちく	おたがいに競争すること。
攪乱	かくらん	かき乱すこと。混乱が起きるようにすること。「鬼の一」
瑕疵	かし	きず、欠点。「法律上の一がある」
呵責	かしゃく	責めさいなむこと。厳しくとがめて叱ること
固唾	かたず	
騙る	かたる	
割愛	かつあい	惜しいと思うものを手放す
庇う	かばう	
寡聞	かぶん	見聞が狭く浅いこと。「一にして知らない」
画餅	がべい	絵に描いた餅 何の役にも立たないこと
喚起	かんき	呼び起こすこと。「注意を一する」
鑑みる	かんがみる	

諫言	かんげん	目上の人 ^の の過失などを指摘し忠告すること。その言葉。
含羞	がんしゅう	はじらい。恥ずかしいと思う気持ち。「頬に一の色を浮かべる」
完遂	かんすい	
陥穽	かんせい	落とし穴
含蓄	がんちく	言葉などの、表面に現れない深い意味・内容
帰依	きえ	信仰して仏にすがること
奇禍	きか	思いがけない災難
象潟	きさかた	秋田県の地名
既出	きしゅつ	すでに示されていること。「一の英単語」
毅然	きぜん	
忌憚	きたん	忌みはばかりのこと。遠慮すること。
杞憂	きゆう	
嗅覚	きゆうかく	
教唆	きょうさ	ある事を起こすよう教えそそのかすこと。「殺人一」
矜持	きょうじ	誇り。プライド
強靱	きょうじん	
供する	きょうする	
怯懦	きょうだ	臆病で気が弱いこと。いくじのないこと。
僅差	きんさ	
曲者	くせもの	
功德	くどく	現世・来世に幸福をもたらす元になる善行。善根。「一を施す」
与する	くみする	
薰陶	くんとう	徳の力で人を感化し、教育すること。「一のたまもの」
境内	けいだい	
慶弔	けいちょう	
逆鱗	げきりん	目上の人を激しく怒らせる。
怪訝	げげん	不思議で納得がいけないこと。「一な顔をする」
貶す	けなす	
健気	けなげ	
言質	げんち	後の証拠となる言葉。「一を取る」
喧伝	けんでん	
更迭	こうてつ	ある地位・役目にある人を他の人と代えること。「大臣を一する」
古刹	こさつ	由緒ある古い寺。古寺。
姑息	こそく	一時しのぎ
忽然	こつぜん	物事が一瞬にして現れたり消えたりするさま。
誤謬	ごびゅう	間違えること

古文書	こもんじょ	
御用達	ごようたし	宮中・官庁などへ用品を 納めること。「宮内庁一の品」
御利益	ごりやく	
強面	こわもて	
建立	こんりゅう	
采配	さいはい	
詐欺	さぎ	
蔑む	さげすむ	
雑魚	ざこ	
山茶花	さざんか	
早急	さっきゅう	
残滓	ざんし	残りかす。「旧体制の一」
暫時	ざんじ	しばらく。少しの間。「一休憩」
斯界	しかい	その道を専門とする社会。この分野。「一の長老」
刺客	しかく	暗殺する人
忸怩	じくじ	自分の行為について、心のうちで 恥じ入るさま。「内心一たる思いであった」
時化	しけ	
私淑	ししゅく	直接に教えは受けないが、密かにその人を師として尊敬し、模範として学ぶこと。「一する作家」
市井	しせい	市中に住む人。庶民。
使喉	しそう	指図してそそのかすこと
宍粟市	しそうし	兵庫県の市
強か	したたか	
桎梏	しっこく	人の行動 を厳しく制限して自由を束縛するもの。「因襲の一から逃れられない」
出生率	しゅっしょうりつ	
老舗	しにせ	代々続いて同じ商売をしている格式・信用のある店。
四万十川	しまんと	高知県の川
注連縄	しめなわ	
諮問	しもん	有識者または一定機関に、意見を 求めること。
灼熱	しゃくねつ	
積丹	しゃこたん	北海道の半島
奢侈	しゃし	度を過ぎてぜいたくなこと。身分不相応 に金を費やすこと。
終焉	しゅうえん	生命が終わること。死を迎えること。臨終。最期。
愁眉	しゅうび	憂いを含んだ眉。心配顔。「一を開く (安心することのたとえ)」

酒肴	しゅこう	
数珠	じゆず	
遵守	じゆんしゆ	
馴致	じゆんち	慣れさせること。馴染ませること
掌握	しょうあく	
上梓	じょうし	書物を出版すること。「処女作を一する」
成就	じょうじゆ	物事が望んだとおりに完成すること。「悲願が一する」「大願一」
饒舌	じょうぜつ	
従容	しょうよう	ゆったりと落ち着いているさま。「彼は、一として死に就いた」
所期	しょき	前もって定めておくこと。しよご。「一の目的を達する」
嘱望	しょくぼう	期待すること 人の前途・将来に望みをかけること
熾烈	しれつ	勢いが盛んで激しいさま。「一な戦い」
塵埃	じんあい	ちりとほこり 「世俗の一を逃れる」
殿	しんがり	
真摯	しんし	まじめでひたむきなこと。
宍道湖	しんじこ	島根県松江市と出雲市にまたがる湖
斟酌	しんしゃく	相手の事情・心情などをくみとること。手加減すること。
進捗	しんちよく	物事がはかどること。「工事の一状況」
遂行	すいこう	
垂涎	すいぜん	皆が羨んで何としてもほしいと思うもののこと 「一の的」
酸ヶ湯	すかゆ	青森県の地名
宿毛市	すくもし	高知の地名
杜撰	ずさん	物事がいいかげんで、誤りが多いこと。「一な管理」
集く	すだく	
拗ねる	すねる	
須らく	すべからく	当然。為すべきこととして
凄惨	せいさん	目をそむけたくなるほど 痛ましいこと。「一を究める事故現場」
脆弱	ぜいじゃく	脆くて弱いこと
碩学	せきがく	深い学問を身につけた人。大学者。「平安初期の一の学者だ」
刹那	せつな	極めて短い時間、瞬間「一的な生き方」
善後策	ぜんごさく	
漸次	ぜんじ	だんだん。しだいに。「一東へ移動しつつある」
川内市	せんだいし	鹿児島県の市
相殺	そうさい	互いに殺し合うこと。帳消しにすること
騒擾	そうじょう	集団で騒ぎを起こし、社会の秩序を乱すこと
唆す	そそのかす	

付度	そんたく	他人の心をおしはかること。「相手の 真意を一する」
束縛	そくばく	
仄聞	そくぶん	噂などで、少し耳に入ること。人づてにちょっと聞くこと。
大山	だいせん	鳥取県の山
薪能	たきぎのう	
山車	だし	神社の祭礼に引く山、鉾、人形などを飾った屋台。
殺陣	たて	演劇や映画・テレビなどで、斬り合い・乱闘・捕物などの演技や場面。
耽溺	たんでき	一つの事に夢中になって、他を顧みない事
蒲公英	たんぽぽ	
知己	ちき	親友。自分のことをよく理解してくれている人
遂次	ちくじ	その都度 少しずつ
衷心	ちゅうしん	まごころの奥底。「一より感謝申し上げる」
紐帯	ちゅうたい	二つのものをかたく結びつけるもの。
躊躇	ちゅうちょ	ためらうこと。「一なく断る」「
貼付	ちょうふ	
枕頭	ちんとう	寝ている人の枕のそば
追徴金	ついちょうきん	
月極	つきぎめ	月極駐車場
続柄	つづきがら	
九十九折	つづらおり	
具に	つぶさに	
氷柱	つらら	
鼎談	ていだん	三人で向かい合って話すこと。
恬淡	てんたん	心静かでわだかまりがなく、さっぱりとしているさま
洞察	どうさつ	物事を観察して、その本質や奥底にあるものを見抜く事
踏襲	とうしゅう	前人のやり方などをそのまま受け継ぐ こと。
蕩尽	とうじん	財産などを使い果たすこと
蟻螂	とうろう	かまきりのこと。「一の斧」
心太	ところてん	
訥弁	とつべん	話し方が滑らかでない事。⇔能弁
吐露	とろ	
泥仕合	どろじあい	
遁走	とんそう	
蔑ろ	ないがしろ	
等閑	なおざり	いいかげんなさまの事

長押	なげし	鴨居の上などの側面に 取り付けた、柱と柱の間をつなぐ横材。
刃傷	にんじょう	刃物で人を傷つけるような争い。「刃傷松の廊下」(忠臣蔵)
労う	ねぎらう	
捏造	ねつぞう	事実でないことを事実のように拵えること。でっち上げ
懇ろ	ねんごろ	親しいさま
年俸	ねんぼう	
長閑	のどか	
暖簾	のれん	
捗る	はかどる	
白眉	はくび	同類の中でとりわけ擦れた人や物のこと
端境期	はざかいき	物事の 入れ替わりの時期。「一で在庫が品薄になる」
頒布	はんぷ	品物や資料などを、広く配ること。「銘酒の一會」
凡例	はんれい	図表で使用する記号等の意味を説明する内容。 書物の巻頭にあ って、その編述の方針や使用法などを 述べたもの。
鼻肩	ひいき	
彼我	ひが	相手と自分。 あちらとこちら
只管	ひたすら	
畢竟	ひっきょう	究極、最終、つまるところ
逼迫	ひっぱく	行き詰まって余裕のなくなること。「財政が一する」
一入	ひとしお	
他人事	ひとごと	
弥縫	びほう	失敗や欠点を一時的にとりつくろう こと。
翻る	ひるがえる	
頻出	ひんしゅつ	しきりに現れたり、怒ったりすること
敷衍	ふえん	おし広げること。 意味・趣旨をおし広げて説明すること。
不束	ふつつか	
不如意	ふによい	経済的に苦しいこと。 思うように事が運ばないこと。
訃報	ふほう	死去のお知らせ
無聊	ぶりょう	退屈。「一をかこつ」(不遇な立場におかれた自分を嘆く)
紛糾	ふんきゅう	意見や主張などが対立してもつれること 。ごたごた。紛乱。
片鱗	へんりん	
放蕩	ほうとう	
木鐸	ぼくたく	木の下のついている大きな鈴。世の人を 教え導く人。社会の指
導者。「新聞は社会の一」		
朴訥	ぼくとつ	実直で素朴な様子
反故	ほご	ないものとする。役に立たないものにする。「契約を一〇する」

綻ぶ	ほころぶ	
殆ど	ほとんど	
先斗町	ぼんとちょう	
煩悩	ぼんのう	人間の心身の苦しみを生み出す精神のはたらき。
幕間	まくあい	芝居で一幕が終わって次の幕が開くまでの間」を指す
愛娘	まなむすめ	
三行半	みくだりはん	
眉間	みけん	
未曾有	みぞう	
鳩尾	みぞおち	
名刹	めいさつ	名高い寺。由緒ある寺
明晰	めいせき	
網羅	もうら	残さず取り入れること
没義道	もぎどう	非道 人としての道に外れていること
黙秘権	もくひけん	
猛者	もさ	
専ら	もっぱら	
雄渾	ゆうこん	雄々しくて勢いがいいこと 力強くてよどみのないこと
諭旨	ゆし	趣旨や理由をさとし、告げること 例：諭旨免職
容喙	ようかい	横から口出しすること。差し出口
漸く	ようやく	
拉致	らち	ある個人の自由を奪い、別の場所へ強制的に連れ去ること。
遊説	ゆうぜい	政治家が各地を回って演説する事
所以	ゆえん	そう言われるようになったわけ。理由。
油井	ゆせい	石油を汲み上げるために掘った井戸のこと
夭逝	ようせい	年が若くて死ぬこと
螺旋	らせん	
罹災	りさい	
凌駕	りょうが	他を凌いでその上に出る
領袖	りょうしゅう	襟と袖の意。リーダー。ある集団の中の主となる人物。
坩堝	るつぼ	
廉価	れんか	値段が安いこと。安い値段。安価。
緑青	ろくしょう	銅の錆びのこと
弁える	わきまえる	